資料1-2-1

瀬戸内海国立公園
(和歌山県地域)

指 定 書
及び
公園計画書

平成 年 月 日

環 境 庁

瀬戸内海国立公園
(和歌山県地域)

指 定 書
(公園計画の変更)

目 次

	ページ
1. 変 更 理 由	5
(1) 変更に係る共通的基本方針	5
(2) 和歌山県地域に係る変更理由	6
2. 地 域 の 概 要	7
(1) 景 観 の 特 性	7
ア. 地形・地質	7
イ. 植 生	7
ウ. 野生動物	7
エ. 自然現象	7
オ. 人文その他の特殊景観	7
(2) 利用の現況	8
(3) 社会経済的背景	9
ア. 土地所有別	9
イ. 人口及び産業	9
ウ. 権利制限関係	9
3. 公 園 区 域	12

1. 変更理由

(1) 変更に係る共通的基本方針

瀬戸内海国立公園は、その比類無い内海多島海景観に加えて古くから営まれている人間生活がもたらした自然と人文とが調和した特色ある景観を有することから、わが国で最初の国立公園のひとつとして昭和9年に備讃瀬戸を中心に指定され、さらに昭和25年及び昭和31年と2度にわたり行われた公園区域の拡張により、紀淡、鳴門、関門、豊予の4海峡で画された瀬戸内海のほぼ全域、関係する県も和歌山、兵庫、岡山、広島、山口、福岡、大分、愛媛、香川、徳島の10県に及ぶわが国屈指の海の国立公園となったものである。

しかしながら、その後の本公園をとりまく社会条件の変化、特に昭和30年代後半から巨大化、本格化した工業開発あるいは都市化の著しい進展は、本公園の景観や環境の質を大きく変化させ、現公園区域及び公園計画では、これに十分対応できない状況にある。

このため、昭和50年より本公園の全域を対象とした公園の区域の再検討を、次の方針により関係県ごとに行っているところである。

ア. 瀬戸内海の自然の人文との調和した特色ある景観を総体として保全していくため、次に掲げる地域について公園区域への編入を検討する。

(7) 内海景観の重要な構成要素となっている島しょ、岩礁、海浜等

(イ) 内海景観の良好な展望地及び今後海浜レクリエーション等の適切な公園利用を図っていくべき地域

(ロ) 林地、農地等で自然性はそれほど高くなくとも瀬戸内海の景観の重要な構成要素となっている地域

(ハ) 公園区域(陸域)地先の海面で、陸域と一体的に保護及び利用を図るべき地域

(ニ) 瀬戸内海の歴史と深い関りをもつ人文景観を有する地域

イ. 現行公園陸域及び埋め立て地については、市街化や工業地域化が著しい等、公園として存続させる意義が失われた地域については公園区域から削

除する。

ウ. 区域線の不明確な箇所については、明確な区域線を選定し直すとともに、必要な区域の変更を行う。

(2) 和歌山県地域に係る変更理由

本地域は、瀬戸内海の東端にあたる紀淡海峡をはさんで淡路島の東方に位置する和歌山県の海岸部で、北部の加太・友ヶ島地区と南部の和歌浦・雑賀崎地区に分けられる。

本地域は、主として多島海景観の構成要素及びその展望地として昭和25年、昭和31年及び昭和38年の区域拡張により区域編入されたものである。その後昭和57年2月には土地利用基本計画との調整を図るため一部地域削除が行われたが、現在もなお一部に区域線の不明瞭なところが存在するのでその明確化を図り、必要な変更を行うものである。

2. 地域の概要

(1) 景観の特性

ア. 地形・地質

本地域は、瀬戸内海の東端にあたる紀淡海峡に浮かぶ友ヶ島（沖ノ島、地ノ島）とその東方、本州の海岸部から成る。

加太・友ヶ島地区は、中央構造線の北端に属し和泉層群といわれる砂岩、泥岩、れき岩の互層よりなり、砂岩層からは古代の海生植物、コダイアマモの化石が出土している。

和歌浦・雑賀崎地区は、中央構造線の南側にあり、緑色片岩がつくる海食崖、いわゆる青石の断崖（鷹の巣）が特殊な景観となっている。

イ. 植生

加太・友ヶ島地区の多くはクロマツの混生したヤブツバキ、スタジイ、ヤマモモ、ウバメガシ等の常緑広葉樹林に被われており、友ヶ島にある深蛇池には熱帯性シダのテツホシダが自生する一方、県の天然記念物に指定されている寒地性のオオクグも生育している。

雑賀崎・和歌浦地区の大部分は、クロマツを主木とする二次林でヤブツバキ、ヤブニッケイ、アオキ等の常緑広葉樹が混生している。

ウ. 野生動物

特記するものはないが、友ヶ島には野生化した台湾リス、台湾シカ等が見られる。

エ. 自然現象

友ヶ島周辺は、瀬戸があり潮の干満時の潮流が激しい。

オ. 人文その他の特殊景観

加太・友ヶ島地区は、旧軍施設の砲台跡が残されており往時の記念物的施設となっている。

和歌浦地区には、漁村風景が見られる。

(2) 利用の現況

(ア) 加太・友ヶ島地区

磯遊び、海水浴、釣魚、キャンプ、ハイキング等の利用による一季型のレクリエーション地域で年間の利用客は約90万人である。

(単位：万人)

月	1・2・3	4・5・6	7・8・9	10・11・12	合計
利用者数	6	10	70	6	92
率	6.5%	24.7%	76.1%	6.5%	100%

(イ) 和歌浦地区

和歌浦・雑賀崎一帯は、宿泊リゾート、一般観光が主で年間の利用客は約240万人である。他は釣魚、ヨット、海水浴等の利用がされている。

(単位：万人)

月	1・2・3	4・5・6	7・8・9	10・11・12	合計
利用者数	51	59	70	59	239
率	21.3%	24.7%	29.7%	24.7%	100%

年間平均して利用客が訪れているが、特に4、7、8月に多い。

(3) 社会経済的背景

ア. 土地所有別

(単位：ha)

	加太・友ヶ島	和歌浦・雑賀崎	計
国有地	155	0	155
公有地	148	0	148
私有地	92	87	179
計	395	87	482

イ. 人口及び産業

(7) 加太・友ヶ島地区

当該地周辺は、加太、深山に集落が形成されており定住人口は約5,700人となっている。漁業、観光関係は産業構成の10%内外であり、大部分は都市への通勤者である。旅館、民宿等が3軒ほどある。

(4) 和歌浦・雑賀崎地区

当該地周辺は、和歌浦、雑賀崎地区よりなり、その集落地の大部分は公園区域外にあり、定住人口は約50,000人である。

産業構造は、漁業、サービス業が主体であり、その他は都市部への通勤者である。

ウ. 権利制限関係

(7) 保安林

別表のとおり

(4) 鳥獣保護区

別表のとおり

(7) 史跡名勝天然記念物

別表のとおり

(1) 都市計画区域・風致地区

別表のとおり

(4) 海岸保全地域

別表のとおり

(7) 保安林

種 類	位 置	重複面積	指 定 年 月 日
魚 つ き	和歌山市雑賀崎	1. 5 h a	明治30年12月27日
”	”	5. 3 h a	昭和 3年 4月19日

(1) 鳥獣保護区

名 称	位 置	重複面積	指 定 年 月 日
友ヶ島鳥獣保護区	和歌山市加太	192 h a	昭和38年 9月14日
友ヶ島特別保護地区	和歌山市加太	79.0 h a	昭和49年11月 1日
和歌浦鳥獣保護区	和歌山市和歌浦	87.0 h a	昭和38年 9月14日

(7) 史跡・名勝天然記念物（県指定）

名 称	位 置	指 定 年 月 日
友ヶ島深蛇池 湿地帯 植物群落	和歌山市加太・友ヶ島	昭和33年 4月 1日
鷹の巣	和歌山市雑賀崎	昭和34年 4月23日

(工) 都市計画区域・風致地区

風致地区名	位 置	重複面積	指定 年 月 日
和歌浦・雑賀浦	和歌山市和歌浦 ・雑賀崎	87.0ha	昭和16年12月22日

(才) 海岸保全区域

名 称	位 置	指定 年 月 日
大川港大川地区	和歌山市大川	昭和39年 9月22日
加太港深山加太地区	和歌山市加太	昭和39年 9月22日
田野浦海岸大川地区	和歌山市大川	昭和33年 4月 1日

3. 公園区域

瀬戸内海国立公園（和歌山県地域）の区域を次のとおりとする。

（表1：公園区域表）

県名	区 域	面積（ha）
和歌山県	和歌山市大字大川、大字加太、大字雑賀崎、大字新和歌浦、大字田野、大字西浜及び大字深山の各一部	482
海 域	大阪府泉南郡岬町地内観音崎と兵庫県州本市地内宮崎鼻を結ぶ線、同宮崎鼻と同県同市地内生石崎の間の海岸線、同生石崎と和歌山県和歌山市地内田倉崎を結ぶ線及び同田倉崎と大阪府泉南郡岬町地区観音崎の間の海岸線によって囲まれた海面（兵庫県及び大阪府地域を除く）	
	合 計	482

瀬戸内海国立公園

(和歌山県地域)

公園計画書

(公園計画の変更)

目 次

	ページ
1. 基本方針	17
(1) 再検討に係る共通的基本方針	17
(2) 和歌山県地域の再検討に係る基本方針	20
(3) 再検討後の保護計画	20
(4) 再検討後の利用計画	21
2. 保護計画	23
(1) 保護規制計画	23
ア. 特別地域	23
(ア) 第一種特別地域	23
(イ) 第二種特別地域	27
(ウ) 第三種特別地域	31
イ. 地域地区別土地所有別及び市町村別面積	34
3. 利用計画	36
(1) 利用施設計画	36
ア. 集団施設地区	36
イ. 単独施設	38
ウ. 道 路	40
(ア) 車 道	40
(イ) 歩 道	40
エ. 運輸施設	42
4. 参考事項	47
(1) 指定植物	47
(2) 過去の経緯	51
(3) 公園区域及び公園計画の変更	54
ア. 公園区域及び保護規制計画	54
イ. 利用施設計画	56

1. 基本方針

(1) 再検討に係る共通的基本方針

瀬戸内海国立公園は、わが国屈指の内海多島海景観に加えて自然・人文の融和した特徴的な景観を有することから、昭和9年に讃備瀬戸がわが国最初の国立公園の一つとして指定され、その後昭和25年及び昭和31年の区域拡張により、ほぼ現在の区域を形成するに至っている。

公園計画については、当初指定区域に対して昭和13年に保護計画が決定され、これに基づき特別地域の指定が行われたが（地種区分未定）、昭和32年には既決定分も含めて改めて計画策定がなされ、特別地域の地種区分や特別保護地区の指定等が行われた。その後の区域及び保護計画の変更は、ごく部分的なものに留まっている。

利用計画は、昭和11年及び昭和15年の車道及び埠頭棧橋の計画決定を皮切りに以後逐次計画の追加、変更が行われ今日に至っている。

この間、本公園をとりまく社会条件は著しく変化し、区域内の景観の質や公園利用形態に大きな影響を及ぼした。

このため、本公園の全域にわたり公園計画の再検討を行うこととし、作業は次の基本方針の下に、原則として各県ごとに実施しているところである。

ア. 保護計画については、自然景観の質の再評価を行なうとともに利用上の必要性をも勘案して計画を策定することとするが、本公園の特性に鑑み、農林漁業等第1次産業との調整には十分配慮するものとする。

各地域地区及び特別地域の地種区分の選定は次によるものとする。

(7) 特別保護地区としては、本公園区域において稀少となった照葉樹林がまとまって残存し原生状態をよく保持している地区で、今後とも厳正な保護を図っていく必要のある地区を選定するものとする。

(イ) 第1種特別地域としては、島しょ、岩礁、海浜等の内海景観を構成している地域及び貴重な植生又は特異な地形・地質を有する地域等で自然状態をよく保持し、現在の景観を極力保護することが必要な地域を選定するものとする。

(ウ) 第2種特別地域としては、内海景観を構成している地域、主要な展望

対象地等で比較的自然状態をよく保持している地域あるいは自然環境の優れた良好な展望地とその周辺地域及び海浜レクリエーション等を主として適正な公園利用を図る必要のある地域を選定するものとする。

- (イ) 第3種特別地域は、上記(ア)～(ウ)及び(オ)以外の地域で本公園の風致景観を総体として維持していくために保護する必要のある地域とし、農林漁業等第1次産業との調整には十分配慮するものとする。
- (オ) 陸域の普通地域は、原則として地域住民の生活の場である既存の集落地等とする。

イ. 利用計画

本公園における利用形態としては、内海景観の展望や自然及び人文景観の探勝等の観光並びに夏季を中心とした海水浴、磯遊び等の海浜レクリエーションがふさわしいものと考えられる。

したがって利用計画の策定に当たっては、各地域の特性を十分把握してそれぞれの利用上の性格づけを明確にするとともに、次の点に留意しつつ各地域ごとの適切な利用が図られるよう検討するものとする。

- (ア) 既存の集団施設地区計画については、周辺の自然環境、立地条件及び利用の実態等を踏まえてその必要性を検討し、整理を行う。

また、利用計画上集団施設地区の設定が必要で、かつその要件を満たしうる地域については、集団施設地区としてとりあげるものとする。

- (イ) 単独施設の計画については、展望、休憩のための園地及び海水浴場に重点を置くものとする。

なお、舟遊施設については、集団施設地区内に計画する場合も含めて施設が乱立することのないよう最小限かつ適切な配置を検討するものとする。

- (ウ) 道路のうち車道については、風致維持及び徒歩利用の観点から現計画の再検討を行うものとする。

なお、歩道については積極的にとりあげるものとし、特に自然探勝を目的とするものに重点を置くものとする。

ウ. 具体的事項

本公園に広く存在し、景観や公園利用に影響を及ぼすことの大きい採石地や埋め立て地の取り扱いについては次によるものとする。

(7) 採石地について

原則として現行地種区分を踏襲するが、以下のいずれかの場合は地種区分の変更を行うものとする。

- a. 景観の質的側面から明らかに現行の地種区分がなじまない場合。
- b. 現行の地種区分による規制では対応できず、「特定地域における特定行為」が認定されている地区又は別途取り扱い方針を定めている地区でその内容からみて区域削除又は地種区分を変更することが適当な場合
- c. 区域線の明確化のためにやむをえない場合

(1) 埋め立て地について

- a. 自然公園法（以下「法」という）第14条に基づき承認又は認可をうけて行われ国立公園事業用地となっている埋め立て地の場合は、隣接する地域の地種区分と同種のものとする。
- b. 法第17条又は第20条に基づく許可を受け又は届け出が行われている場合は、原則として陸域普通地域として扱うが、その現況が以下の(a)～(c)までの一つである地域は区域から削除するものとする。

なお、区域線の明確化のためにやむをえない場合は区域削除又は地種区分の変更を行うものとする。

- (a) 市街化区域に指定されている住宅地等建物が密集している地域
- (b) 第2次産業又は第3次産業に利用されている地域
- (c) 漁港、港湾施設、各種廃棄物処理用地又は資材置き場等として利用されている地域

(ウ) 集落地について

原則として現行計画を踏襲するものとするが、以下のいずれかの場合は区域の削除又は地種区分の変更を行うものとする。

- a. 市街化や集落化が著しいもの
- b. 現行の地種区分による規制では対応できず、「特定地域における特

定行為」が認定されている地区又は別途取り扱い方針を定めている地区でその内容からみて地域削除又は地種区分を変更することが適当な場合

c. 区域線の明確化のためにやむをえない場合

(1) 本四連絡橋周辺地域における利用計画の取り扱いについて

- a. 工事が完了した地区においては、必要に応じ当該地区の利用形態の現状に適合させるか又は適切な利用形態に誘導するものとする。
- b. 工事中の地区においては原則として利用計画を追加しないものとする。

(2) 和歌山県地域の再検討に係る基本方針

和歌山県地域は昭和25年、昭和31年及び昭和38年の区域拡張により区域編入されたものであり、昭和32年及び昭和38年に保護計画及び利用計画が決定されている。

それ以後は土地利用基本計画との調整上、市街化した地域の削除に伴う公園計画の変更が行われたのみで基本的な変更は行われないうまま今日に至っている。

この間、交通機関の発達に伴い利用者の増大が続いており、これに対する適切な対応が求められている。

このため、公園計画の再検討を行い自然環境の適切な保全と利用を推進していこうとするものである。

なお、再検討に当たっては、概ね(1)の基本方針によるものとするが、利用計画については、大都市近郊の野外レクリエーション適地という特性をさらに発展させるため、必要な利用計画の変更を行うものとする。

(3) 再検討後の保護計画

ア. 第1種特別地域

自然状態がよく保持されており、多島海景観の重要な構成要素である友ヶ島のうちの神島及び雑賀崎地先の三島（双子島、大島、中ノ島）を従来どおり第1種特別地域として現在の景観を極力保護していくものとする。

イ. 第2種特別地域

自然が比較的良好な状態で残されている友ヶ島（沖ノ島、地ノ島）、加太集団施設地区の一部及び付近の海岸斜面並びに新和歌浦の章魚頭姿山は従来どおり第2種特別地域として風致の維持に努めるものとする。

ウ. 第3種特別地域

特別地域のうち、第1種及び第2種特別地域以外の地域は、本地域の風致景観を総体として維持していくために保護する必要がある地域とし、農林漁業等第1次産業との調整には十分配慮するものとする。

(4) 再検討後の利用計画

ア. 加太集団施設地区は、紀淡海峡に浮かぶ自然性に富んだ二つの島のうち地ノ島及び眺望に優れ、国民休暇村が整備されている地域とし、大都市近郊の野外レクリエーションの場として景観等の特性をいかしつつ整備していくものとする。

イ. 利用施設

単独施設、道路及び運輸施設については、国民休暇村を主体とする本地域の利用をさらに効果的に推進するために必要な変更を行った。

2. 保護計画

(1) 保護規制計画

ア. 特別地域

次の区域を特別地域とする。

(表1：特別地域総括表)

県名	区 域	面積 (h a)
和歌山県	和歌山市 大字大川、大字加太、大字雑賀崎、 大字新和歌浦、大字田野、大字西浜 及び大字深山の各一部	482
合 計		482

(7) 第1種特別地域

次の区域を第1種特別地域とする。

(表2：第1種特別地域総括表)

県名	区 域	面積 (h a)
和歌山県	和歌山市 大字加太及び大字雑賀崎の各一部	6
合 計		6

(表3：第1種特別地域内訳表)

名 称	区 域
友ヶ島・雑賀崎	和歌山県和歌山市 大字加太の一部（神島の全部） 大字雑賀崎の各一部（双子島、大島及び中ノ島の全部）

地 区 の 概 要	面 積 (ha)
<p>クロマツを主体にウバメガシ等の常緑広葉樹が混生する自然性の高い植生に覆われた小島しょであり内海多島海景観の重要な構成要素である。</p>	6
合 計	6

(イ) 第2種特別地域

次の区域を第2種特別地域とする。

(表4：第2種特別地域総括表)

県名	区 域	面積 (ha)
和歌山県	和歌山市 大字大川、大字加太、大字新和歌浦、 大字田野、大字西浜及び大字深山の各 一部	315
	合 計	315

(表5：第2種特別地域内訳表)

名 称	区 域
加 太 ・ 深 山	和歌山県和歌山市 大字大川、大字加太及び大字深山の各一部
沖ノ島・地ノ島	和歌山県和歌山市 大字加太の一部（沖ノ島及び地ノ島の全部）
和 歌 浦	和歌山県和歌山市 大字新和歌浦、大字田野及び大字西浜の各一部。

地区の概要	面積 (ha)
<p>クロマツを主木とし、海岸沿いには、ウバメガシ、ホルトノキ、トベラ、ヒサカキ等が混生する丘陵地である。</p>	38
<p>砂岩やれき岩が堆積した地層が隆起してできた島で海岸部でしゅう曲層等いろいろな変動をうけた地層を見ることができる。</p> <p>植生はスタジイの優先する常緑広葉樹林が大部分であるが、急斜面ではウバメガシ林がみられる。</p>	270
<p>結晶片岩よりなる地質にクロマツを上木とし常緑広葉樹が繁茂する丘陵地で市街地の中にあって小規模ながら緑に恵まれた団地である。</p>	7
<p>合 計</p>	315

(ウ) 第3種特別地域

次の区域を第3種特別地域とする。

(表6：第3種特別地域総括表)

県名	区 域	面積 (ha)
和歌山県	和歌山市 大字大川、大字加太、大字雑賀崎、大字新和歌浦、大字田野、大字西浜及び大字深山の各一部	161
	合 計	161

(表7：第3種特別地域内訳表)

名 称	区 域
加 太 ・ 深 山	和歌山県和歌山市 大字大川、大字加太及び大字深山の各一部
雑賀崎・和歌浦	和歌山県和歌山市 大字雑賀崎、大字新和歌浦、大字田野及び大字西浜の各一部

地 区 の 概 要	面 積 (ha)
<p>クロマツを主木とし、下層木にはヒサカキ、トベラ等の照葉樹の多い混交林である。</p> <p>一部は国民休暇村区域となっており、宿舎、園路等の他、車道加太大川線沿いの平坦地は園地及び運動場として整備されている。</p>	86
<p>和歌山市街地に隣接する半島状の地域で斜面は海岸性の常緑広葉樹林となっている。</p>	75
合 計	161

イ. 地域地区別土地所有別及び市町村別面積

(表8：地域地区別土地所有別面積総括表)

地域区分		特 別 地								
地 種 区 分		特別保護地区			第 1 種			第 2 種		
土地所有別		国	公	私	国	公	私	国	公	私
合 計	土地所有別面積	0	0	0	0	1	5	137	137	41
	地種区分別面積 (比率)				6 (1.2)			315 (65.4)		
	地域地区別面積 (比率)	0 (0.0)								
	地域別面積 (比率)	0 (0.0)								

(表9：地域地区別土地所有別面積総括表)

		現 行							
地域地区 市町村名		特 別 地 域					普通 地域 (陸域)	合計 (陸域) (A)	地中公 園地区 (A')
		特 別	第1種	第2種	第3種	小 計			
和歌山県	和歌山市	0	6	318	163	487	0	487	0
合 計		0	6	318	163	487	0	487	0

(单位:面積・ha、比率・%)

域			普通地域			合 計			海中公園地区
第 3 種			(陸 域)			(陸 域)			
国	公	私	国	公	私	国	公	私	
18	10	133	0	0	0	155	148	179	
161 (33.4)									
482 (100.0)									
482 (100.0)			0 (0.0)			482 (100.0)			0

(单位:ha)

変 更 後					増 減					
特 別 地 域					普通 地域	合計 (陸域)	地中公 園地区	陸域	地中公 園地区	
特 別	第1種	第2種	第3種	小 計	(陸域)	(B)	(B')	(B-A)	(B'-A')	
0	6	315	161	482	0	482	0	△ 5	0	
0	6	315	161	482	0	482	0	△ 5	0	

3. 利用計画

(1) 利用施設計画

ア. 集団施設地区

集団施設地区を次のとおりとする。

(表10：集団施設地区表)

名称	区 域	計 画 目 標
加 太	和歌山県和歌山市 大字加太の一部 159.5 ha (国有地 155.6 ha) (公有地 3.9 ha)	加太地区は瀬戸内海の東端にあって紀淡海峡に面し友ヶ島及び淡路島を望む好展望地であり、大都市近郊のレクリエーションの場として全域国民休暇村として整備を行うものとする。 地ノ島地区は現在のところは施設は整備されておらず良好な自然が残されており、この自然を極力保全しつつ自然探勝の場として整備を行うものとする。

整備方針	旧計画との関係
<p>〔加太地区〕 47.2ha</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宿舎周辺には駐車場、展望施設等を整備する。 2. 宿舎周辺の樹林地には、砲台跡や好展望地を結ぶ園路を整備する。 3. 深山地区の平坦部には、運動場、芝生園地、野営施設を整備する。 4. 城ヶ崎地区は、海とのふれあいの場として必要な施設を整備する。 <p>(施設の種類) 宿舎、駐車場、園地、休憩所、運動場、野営場等</p>	<p>昭和38年 3月 9日 厚生省告示第99号 で区域指定</p> <p>昭和38年 4月 6日 厚生省告示第171号 で詳細計画決定</p> <p>加太・友ヶ島集団 施設地区</p>
<p>〔地ノ島地区〕 112.3ha</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の自然の状態をできるだけ保全しつつ良好な自然とふれあうために必要な自然探勝路等を整備する。 <p>(施設の種類) 園地、園路、栈橋等</p>	

イ. 単独施設

単独施設を次のとおりとする。

(表11：単独施設表)

番 号	種 類	位 置
1	園 地	和歌山県和歌山市（沖ノ島）
2	宿 舎	和歌山県和歌山市（沖ノ島）
3	野 営 場	和歌山県和歌山市（沖ノ島）
4	園 地	和歌山県和歌山市（雑賀崎）
5	宿 舎	和歌山県和歌山市（雑賀崎）
6	園 地	和歌山県和歌山市（章魚頭姿山）

整 備 方 針	旧計画との関係
沖ノ島の自然を探勝するための園地として整備する。	新 規 (昭和38年 4月 6日告示) 加太・友ヶ島集団施設地区
沖ノ島の自然を探勝するための宿舎として整備する。	新 規 (昭和38年 4月 6日告示) 加太・友ヶ島集団施設地区
沖ノ島の自然を探勝するための野営場として整備する。	新 規 (昭和38年 4月 6日告示) 加太・友ヶ島集団施設地区
雑賀崎地区の利用者の休憩等のための施設として整備する。	昭和38年 7月25日告示
雑賀崎地区の利用のための拠点となる宿舎として整備する。	昭和37年12月 7日告示
章魚頭姿山一帯の自然探勝、展望のための遊歩道を整備する。	昭和32年10月23日告示

ウ. 道 路

(7) 車 道

車道を次のとおりとする。

(表12: 道路 (車道) 表)

番 号	路 線 名	区 間	主要経過地
1	加太大川線	起点—和歌山県和歌山市 (袖ヶ浜・国立公園境界) 終点—和歌山県和歌山市 (深山・国立公園境界) 起点—和歌山県和歌山市 (加太・国立公園境界) 終点—和歌山県和歌山市 (加太・国立公園境界)	大川峠

(4) 歩 道

歩道を次のとおりとする。

(表13: 道路 (歩道) 表)

番 号	路 線 名	区 間	主要経過地
1	休暇村大川峠線	起点—和歌山県和歌山市 (袖ヶ浜) 終点—和歌山県和歌山市 (加太国民休暇村)	大川峠
2	雑賀崎海岸線	起点—和歌山県和歌山市 (田野・国立公園境界) 終点—和歌山県和歌山市 (田野・国立公園境界)	

整備方針	旧計画との関係
加太地区を利用するための車道として、部分改良等の整備を行う。	昭和32年10月23日告示 加太淡輪線の名称変更

整備方針	旧計画との関係
休暇村から大川峠への連絡路として整備するとともに、付帯施設として路傍園地を整備する。	新規
海岸遊歩道として整備するとともに、付帯施設として路傍園地を整備する。	新規

番号	路線名	区 間	主要経過地
		起点—和歌山県和歌山市 (雑賀崎・国立公園境界) 終点—和歌山県和歌山市 (雑賀崎)	

工. 運 輸 施 設

運輸施設を次のとおりとする。

(表14: 運輸施設表)

番号	路線名	種 類	位置又は区間
1	沖ノ島	係留施設	和歌山県和歌山市 (沖ノ島)
2	章魚頭姿山線	索 道	起点—和歌山県和歌山市 (新和歌浦) 終点—和歌山県和歌山市 (章魚頭姿山山頂)

整備方針	旧計画との関係

主要経過地	整備方針	旧計画との関係
	沖ノ島を来訪する人のための棧橋を整備する。	新規
	章魚頭姿山山頂への到達施設としての既存施設を維持して行くとともに、付帯施設として園地等の整備を行う。	昭和34年10月26日告示 新和歌浦線の名称及び位置表示の変更

参 考 事 项

4. 参考事項

(1) 指定植物

ア. 特別地域において、採取及び損傷を規制する植物は次のとおりである。

(昭和56年3月23日告示)

科名	種名（ミズゴケ科の植物にあつては属名）
ミズゴケ	ミズゴケ
マツバラ	マツバラ
ヒカゲノカズラ	マンネンスギ
イワヒバ	イワヒバ
ゼンマイ	ヤシャゼンマイ
イノモトソウ	エダウチホングウシダ
シノブ	シノブ、タマシダ
オシダ	ウラボシノコギリシダ、オオクジャクシダ
チャセンシダ	アオガネシダ
ウラボシ	イワヤナギシダ、ヤノネシダ、オシャグジデンド イワオモダカ
シシラン	タキミシダ、シシラン
クワ	カカツガユ
ヤドリギ	オトバヤドリギ
ナデシコ	フジナデシコ（ハマナデシコ）
キンポウゲ	ミスミソウ（スハマソウ、ケスハマソウ） タカネハンショウヅル、トリガタハンショウヅル シロバナハンショウヅル、ヤマシャクヤク オキナグサ
メギ	バイカイカリソウ、イカリソウ
ウマノスズクサ	ミヤコアオイ、サンヨウアオイ、ナンカイアオイ ヒメカンアオイ

科 名	種名 (ミズゴケ科の植物にあつては属名)
ヤ ッ コ ソ ウ	ヤッコソウ
モ ウ セ・ン ゴ ケ	イシモチソウ、モウセンゴケ、コモウセンゴケ
ケ シ	シマエンゴサク
ベ ン ケ イ ソ ウ	ウンゼンマンネングサ、セトウチマンネングサ ミセバヤ
ユ キ ノ シ タ	チャルメルソウ、シラヒゲソウ、ウメバチソウ ジンジソウ
バ ラ	イワキンバイ、テリハキンバイ、コテリハキンバイ シロヤマブキ、ミツバイワガサ (タンゴイワガサ、 イワガサ)、ウラジロイワガサ (ミヤジマシモツケ) イブキシモツケ
マ メ	ナルトオオギ
ハ マ ビ シ	ハマビシ
ト ウ ダ イ ゲ サ	ツワタイゲキ
ヒ メ ハ ギ	タキノハグサ (ナガバノカキノハグサを含む)、ヒナ ノカンザシ
ア オ イ	ハマボウ
ジ ン チ ョ ウ ゲ	コショウノキ
グ ミ	ナツアサドリ
イ ワ ウ メ	イワカガミ (コイワカガミ、オオイワカガミを含む)
イ チ ヤ ク ソ ウ	ウメガサソウ、ギンリョウソウモドキ (アキノギンリ ョウソウ)、ギンリョウソウ、マルバノイチヤクソ

科 名	種名 (ミズゴケ科の植物にあつては属名)
ツ ツ ジ	ウ、ジンヨウイチクソウ ウスギヨウラク、イワナシ、トサノミツバツツジ、サツキ (サツキツツジ)、レンゲツツジ (キレンゲを含む)、ヒカゲツツジ、ツクシシャクナゲ (ホンシャクナゲ、オキシャクナゲを含む)、カラムラサキツツジ (ゲンカイツツジを含む)、サイコクミツバツツジ、シロヤシオ (ゴヨウツツジ)、コバノミツバツツジ、ダイセンミツバツツジ、サラサドウダン、シロドウダン (ベニドウダンを含む)
サ ク ラ ソ ウ	シコクカッコソウ
リ ン ド ウ	リンドウ、センブリ、イヌセンブリ
ア カ ネ	ソナレムグラ、サツマイナモリ、イナモリソウ
ム ラ サ キ	ムラサキ
ク マ ツ ツ ラ	イワダレソウ
シ ソ	イガタツナミソウ
イ ワ タ バ コ	イワタバコ、イワギリソウ
ハ マ ウ ツ ボ	ハマウツボ、キヨスミウツボ
タ ヌ キ モ	ミミカキグサ、コタヌキモ、ヒメタヌキモ、ノタヌキモ、ホザキノミミカキグサ、イヌタヌキモ、ムラサキミミカキグサ
ス イ カ ズ ラ	ヤマヒョウタンボク、チョウジガマズミ
マ ツ ム シ ソ ウ	マツムシソウ

科名	種名（ミズゴケ科の植物にあつては属名）
キキョウ キク	サワギキョウ、キキョウ ソナレノギク、シュンジュギク（シンジュギク、アサマギク）、ウラギク（ハマシオン）、キバナノジギク、マアザミ（キセルアザミ、ツクデマアザミ）、コトセンボンギク、オタカラコウ、ハンカイソウ、オオニガナ、サワオグルマ
ホンゴウソウ ユリ	ホンゴウソウ カンカケイニラ、ステゴビル、シライトソウ、キキョウラン、カタクリ、ショウジョウバカマ、シロバナショウジョウバカマ、ハマカンゾウ、セトウチギボウシ、ササユリ、コオニユリ、アマナ
ビャクブ	ナベワリ
ヒガンバナ	ハマオモト（ハマユウ）
アヤメ	エヒメアヤメ、ヒオオギアヤメ
ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ
サトイモ	ムサシアブミ、ユキモチソウ
カヤツリグサ ラン	イワカンスゲ、オタルスゲ、サギスゲ、ミカツキグサ ヒナラン、イワチドリ、シラン、マメツタラン（マメラン）、ムギラン、エビネ、キエビネ、ギンラン、キンラン、サイハイラン、シュンラン（ホクロ）、マヤラン（サガミラン）、セッコク、カキラン、ツチアケビ、オニノヤガラ、ミヤマウズラ、シュスラン、サギ

科名	種名（ミズゴケ科の植物にあつては属名）
	ソウ、ミズトンボ、ムカゴソウ、ジガバチソウ、クモキリソウ、コ克蘭、ヒメフタバラン、フウラン、ヨウラクラン、ウチョウラン、コケイラン、ジンバイソウ、ツレサギソウ、ヤマサギソウ、オオバノトンボソウ、コバノトンボソウ、トキソウ、ヤマトキソウ、ベニカヤラン（マツラン）、カヤラン、クモラン、ヒトツボクロ

(2) 過去の経緯

ア. 公園区域

- 昭和25年5月18日 厚生省告示第145号 公園区域の追加指定（陸域）
- 昭和31年5月1日 厚生省告示第104号 海面区域の追加指定
- 昭和38年3月9日 厚生省告示第95号 加太地区の追加指定
- 昭和57年2月17日 環境庁告示第13号 区域の一部削除

イ. 特別地域

- 昭和32年10月23日 厚生省告示第341号 公園計画決定
- 厚生省告示第343号 特別地域指定
- 昭和38年3月9日 厚生省告示第96号 公園計画決定（加太地区）
- 厚生省告示第98号 特別地域指定（加太地区）
- 昭和57年2月17日 環境庁告示第14号 公園計画一部変更
- 環境庁告示第15号 特別地域区域変更（一部削除）

ウ. 集団施設地区

昭和29年2月18日 厚生省告示第 41号 由良・友ヶ島集団施設地区指定

昭和38年3月9日 厚生省告示第 97号 由良・友ヶ島集団施設地区を
由良集団施設地区と加太・友
ヶ島集団施設地区に分割

厚生省告示第 99号 加太・友ヶ島集団施設地区区
域指定

昭和38年4月6日 厚生省告示第 171号で詳細計画決定

(3) 公園区域及び公園計画の変更

ア. 公園区域・保護規制計画

公園区域及び保護規制計画の変更は次のとおりである。

番号	区 分	変 更 部 分 の 区 域
1	2特→外 (削 除)	和歌山県和歌山市 大字大川の一部
2	3特→外 (削 除)	和歌山県和歌山市 大字雑賀崎及び大字西浜の各一部
3	3特→外 (削 除)	和歌山県和歌山市 大字新和歌浦の一部

変更理由	面積(ha)	備考
<p>県道の改良にともない、公園区域であった海浜地が消滅したため。</p>	3	
<p>市街化が進行し、公園としての資質を失った区域を削除し、公園区域界を都市計画境界線（市街化区域と市街化調整区域）と一致させ整合を図るため。</p>	1	
<p>境界線とした県道が付け替えられたことにともない、新たな県道を境界線として区域の明確化を図るため。</p>	1	

イ. 利用施設計画

利用施設計画の変更等は次のとおりである。

(7) 集団施設地区

集団施設地区の変更は次のとおりである。

(区域変更表)

番号	区分	名称	変更部分の区域
	削除	加太・友ヶ島	和歌山県和歌山市

変 更 理 由	変更面積 (ha)
<p>沖ノ島については民間事業者による整備が行われており、環境庁主導の整備ができないので集団施設地区から除き、加太国民休暇村を主体とする地域のみを集団施設地区として存続させるため。</p>	<p>159.5ha</p>

(表10：集団施設地区表)

名 称	区 域	計 画 目 標
加 太	和歌山県和歌山市 大字加太の一部 159.5ha (国有地 155.6ha) (公有地 3.9ha)	加太地区は瀬戸内海の東端にあ って紀淡海峡に面し友ヶ島及び淡 路島を望む好展望地であり、大都 市近郊のレクリエーションの場と して全域国民休暇村として整備を 行うものとする。 地の島地区は現在のところは施 設は整備されておらず良好な自然 が残されており、この自然を極力 保全しつつ自然探勝の場として整 備を行うものとする。

整備方針	旧計画との関係
<p>〔加太地区〕 47.2ha</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宿舎周辺には駐車場、展望施設等を整備する。 2. 宿舎周辺の樹林地には、砲台跡や好展望地を結ぶ園路を整備する。 3. 深山地区の平坦部には、運動場、芝生園地、野営施設を整備する。 4. 城ヶ崎地区は、海とのふれあいの場として必要な施設を整備する。 <p>〔施設の種類〕 宿舎、駐車場、園地、休憩所、運動場、野営施設等</p>	<p>昭和38年3月9日 厚生省告示第99号 で区域指定</p> <p>昭和38年4月9日 厚生省告示第171号 で詳細計画決定</p>
<p>〔地ノ島地区〕 112.3ha</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の自然の状態をできるだけ保全しつつ良好な自然とふれあうために必要な自然探勝路等を整備する。 <p>〔施設の種類〕 園地、園路、栈橋等</p>	

(4) 単 独 施 設

追加する単独施設は、次のとおりである。

番 号	種 類	位 置
1	園地	和歌山県和歌山市加太 (沖ノ島)
2	宿舎	和歌山県和歌山市加太 (沖ノ島)
3	野営場	和歌山県和歌山市加太 (沖ノ島)

削除する単独施設は、次のとおりである。

番 号	種 類	位 置
4	広場	和歌山県和歌山市大川
5	駐車場	和歌山県和歌山市新和歌浦
6	宿舎	和歌山県和歌山市加太町

整備方針	旧計画との関係
沖ノ島の自然を探勝するための園地として整備する。	加太友ヶ島集団施設地区 昭和38年4月6日決定 集団施設地区からの削除 にともなうもの。
沖ノ島の自然を探勝する利用者のための宿泊施設として整備する。	加太友ヶ島集団施設地区 昭和38年4月6日決定 集団施設地区からの削除 にともなうもの。
沖ノ島の自然を探勝する利用者のための野営場として整備する。	加太友ヶ島集団施設地区 昭和38年4月6日決定 集団施設地区からの削除 にともなうもの。

告示年月日	削除理由
昭和32年10月23日決定	計画車道加太大川線の付帯施設として取り扱うこととするため。
昭和34年10月26日決定	章魚頭姿山線索動事業の付帯施設として取り扱うこととするため。
昭和37年12月25日決定	加太友ヶ島集団施設地区に含まれるため。

(ウ) 道 路

① 車 道

次の車道を変更する。

		現	行
番号	路線名	区 間	主要経過地
7	加太淡輪線	起点—和歌山県海草郡 加太町 (加太・国立公園境界) 終点—和歌山県海草郡 加太町 (大川・国立公園境界)	昭和37年12月 25日決定

次の車道を削除する。

番 号	種 類 (路線名)	位 置
	雑賀崎線 (車道)	和歌山県和歌山市雑賀崎地内
	和歌浦雑賀崎線 (車道)	起点—和歌山県和歌山市西浜 (国立公園境界) 終点—和歌山県和歌山市和歌浦 (国立公園境界)

		新		規		
番号	路線名	区	間	主要経過地	整備方針	理由
7	加太 大川線	起点－和歌山県和歌山市 (袖ヶ浜・ 国立公園境界)	終点－和歌山県和歌山市 (深山・国立公園境界)		国民休暇 村への主 要な到達 道路であ る。大川 峠には駐 車場、園 地等の展 望休憩施 設を付帯 させる。	路線名称 の変更及 び起終点 の表記を 整理する もの。
		起点－和歌山県和歌山市 (加太・国立公園境界)	終点－和歌山県和歌山市 (加太・国立公園境界)			

告示年月日	削 除 理 由
昭和38年 7月25日決定	一般生活道路としての性格が強く現に公園事業として取り扱われていないため。
昭和32年10月23日決定	一般生活道路としての性格が強く現に公園事業として取り扱われていないため。

② 歩道

次の道路を追加する。

番 号	路 線 名	位 置
1 0	休暇村大川峠線	起点－和歌山県和歌山市 (袖ヶ浜) 終点－和歌山県和歌山市 (加太国民休暇村)
1 1	雑賀崎海岸線	起点－和歌山県和歌山市 (田野・国立公園境界) 終点－和歌山県和歌山市 (田野・国立公園境界) 起点－和歌山県和歌山市 (雑賀崎・国立公園境界) 終点－和歌山県和歌山市 (雑賀崎)

(1) 運輸施設

次の運輸施設を追加する。

番 号	種 類 (路線名)	位 置
1 2	係留施設	和歌山県和歌山市加太 (沖ノ島)

主要経過地	整備方針	旧計画との関係
	<p>休暇村から大川峠への連絡路として整備するとともに、付帯施設として路傍園地を整備する。</p>	<p>新規</p>
	<p>海岸遊歩道として整備するとともに、付帯施設として路傍園地を整備する。</p>	<p>新規</p>

主要経過地	整備方針	旧計画との関係
	<p>沖ノ島を来訪する人のための栈橋を整備する。</p>	<p>集団施設地区からの削除にともなうもの。 加太友ヶ島集団施設地区 昭和38年4月6日決定</p>

次の運輸施設を変更する。

現		行		
番号	種類	路線名	区 間	主要経過地
13	索道	和歌浦線	起点—和歌山県和歌山市 (新和歌浦) 終点—和歌山県和歌山市 (章魚頭姿山)	昭和34年10月 26日告示

新		規				理 由
番号	種類	路線名	区 間	主要経過地	整備方針	
13	索道	章魚頭 姿山線	起点-和歌山県 和歌山市 (新和歌浦) 終点-和歌山県 和歌山市 (章魚頭姿山 山頂)		章魚頭姿 山山頂へ の到達施 設として 既存施設 を維持し ていくと ともに、 付帯施設 として園 地等の整 備を行う	路線名称 の変更及 び起終点 の表記を 整理する もの。